

急病などの「音児」も欠席理由に追加してもらえないかと、山田さんの所属する会派が提案したが、認められなかった。この議論の過程で、「音児の代わりはいるが、議員の代わりはいいない」という発言が男性市議からあつたという内容を山田さんがフェイスブックに投稿したところ、この行動が問題視され、山田さんは会派の代表者会議で約3時間間にわたって謝罪と投稿内容の訂正を求められたという。「議会は少数派の意見が聞き入

れられにくい構造になっている。でも、これは社会的な問題。市民に問いかけていきたい」2人はそう話す。2児の母である山田さんは、東日本震災がきっかけで市民活動を始め、その代表として15年4月の統一地方選に立候補し、初当選した。選挙期間中には子育て経験のある女性から、「社会を変えるのはいいけど、自分の子の面倒はどうするの」と言われたこともある。「女性の声を代弁してくれれば、他に他ののなら、私だつて子どもと過ごしていたい。でも今の議会にはいないから、自分がやるしかなかった」

越谷市議会の32議席中、女性には8人で4分の1。ちなみに越谷市の人口の男女比は、ほぼ半々である。世界経済フォーラムの11月の報告によると、男女格差の少なさを指数化したジェンダーギャップ指数で、日本は145カ国中101位。右下のチャートのように、女性の政治参加が低調なことが順位を下げる要因になっている。



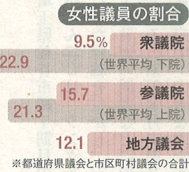
推進連合に議席を確保する。オーストラリアのクオータ制を模倣する。オーストラリアのクオータ制を模倣する。オーストラリアのクオータ制を模倣する。

鶏が先か卵が先か

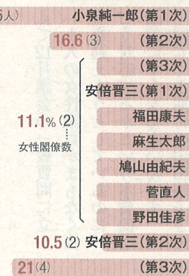
女性登用の数値目標などを義務づける女性活躍推進法を8月に成立させた、その足元の国会に至っては、女性議員の割合は

わずか1割だ。安倍政権は「女性が輝く社会」を提唱しているが、国会では前ページで3議員が訴えたようなセクハラさえ横行する。こんな状態で「女性活躍推進」というのだからどうか。アエラは10月11日、「女性政治家に望むことは何ですか」というアンケートを実施した(66

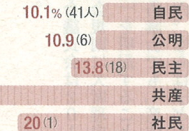
女性議員は増えている？



歴代内閣発足時の女性閣僚の割合



主な政党の国会議員に占める女性議員の割合



アエラ編集部調べ

い、と訴える。「日本で女性政治家が増えないのは、嘆いているばかりで増やすための特別な対策を何もしていないから。女性にゲタを履かせるという批判もあるが、本気で取り組まなければ外国にますます後れを取ってしまいます」

増やしてから選ぶ

12月10日には、代表を務める「クオータ制を推進する会」が、「政治分野における男女共同参画推進法(仮)」の制定に向けた決起集会を開いた。公職選挙法の改正により、比例代表の名簿で男女が交互に当選できる仕組みづくりも求めている。超党派の議員連盟は58人になり、来年の通常国会での法案提出を目指す。

民主党の辻元清美・衆院議員は集会で、「法案ができて立候補する女性がいなければ絵に描いた餅になる」と、女性も政治参加の意識を高めるよう呼びかけた。

女性議員を増やすには、制度の整備と意識改革の両輪が必要だ。だが、アエラのアンケートでは「女性なら誰でもいいわけではない」という注文性に対しては、女性議員の多様性を求める声があった。「とにかく一度、女性の数を増やしてからふるいにかけたい」(40代/会社員/女性)「バッシングされても頑張っている良識ある女性政治家はいるが、女性有権者はお金も時間もなくて、なかなか彼女たちを応援できていない。女性が女性政治家にエンパワメントされることだけ期待せず、女性政治家をエンパワメントしなくてはなりません」(40代/自営業/女性)

政府は、2020年までに指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%程度にすることを掲げる。だが民間企業に数値目標を求める前に、まずすべき